

新型コロナウイルス 中東で猛威

サウジアラビアなど中東で致死率が5割に上る新型コロナウイルスの感染が拡大し、日本国内でも感染者を早期に見出す態勢を整えるなど、対応に着手した。世界保健機関(WHO)によると、24日までに8カ国で44人の感染が確認され、22人が死亡。旅行者が感染する例もあり、厚生労働省は「日本でも感染が

新型コロナウイルスの発生国



確認される恐れがある」として警戒を強めている。新型コロナウイルスは一般的な風邪のウイルスだが、変異して病原性が強まる可能性があり、2003年に流行し高い致死率で恐れられた「SARS(新型肺炎)」の原因は新型コロナウイルス。日本では感染者は出なかつたが、中国を中心に世界

で700人以上が死亡した。

今回、感染が広がっているのは新たに変異した新型コロナウイルスで、昨年4月ごろに初めて人への感染が確認された。当初は発生は少なかつたが、今年5月に入ってから27人が感染す

るなど勢いが増している。症状は熱やせき、下痢などで、重篤な肺炎などで死に至る。コウモリから人に感染したという説もあるが感染源は不明で、ワクチンなどの治療法はないという。専門家によると、世界では平均して年間1種類の新しい感染症が出現。その中にはSARSのように制御されるものもあれば、鳥インフルエンザH5N1型

のように、人から人に持続的に感染する新型インフルエンザへの変異の可能性を指摘されるケースもある。蔓延する前に患者を発見し隔離、治療を施すことが重要で、厚生労働省は1月、全国の地方衛生研究所に新型コロナウイルスを検出できる検査キットを配布。感染者をすぐに確認できるようにした。国立感染症研究所の松山州徳室長は「今回の

新型コロナウイルスは、ノロウイルスのような強い感染力はない」として、手洗いやうがいなど通常の感染症対策を呼びかける。

一方、鳥インフルエンザH7N9型の感染は収まってきた。24日までに中国の2市8省と台湾で1311人が感染し、36人死亡、WHOが7日に患者2人を報告したのを最後に新たな患者の発生はないが、秋から冬にかけて増える可能性があり、厚生労働省は引き続き警戒を続けている。

致死率5割、22人死亡 日本も警戒